

7月1日現在の就職活動状況

夏場を迎え、就職採用戦線は事実上の後半戦へと突入している。夏採用の募集も盛んに行われている。7月1日現在の学生モニターの就職活動状況について調査したところ、内定率は前年同期を上回り、先月調査に引き続き好調なペースで推移していることが分かった。

1. 7月1日現在の内定状況

○内定率は79.3%。前年同時期(76.0%)より3.3ポイント上昇

2. 7月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

○全体的な活動量は前年と同水準。「エントリー」89.6社、「企業単独セミナー」24.4社

3. 就職活動継続者の状況

○新たな企業を探す手段は、「就職情報サイト」88.7%、「大学の求人票」38.2%

4. 就職活動継続者が活動の中心としている企業規模

○現時点で活動の中心は、「規模にこだわらずに活動」が62.5%

5. 就職決定企業の規模

○従業員1000人以上の大手企業への就職が65.6%

6. 就職決定企業の業界

○文系は「銀行」「情報処理」「保険」。理系は「情報処理」「電子・電機」「医薬品」

7. 就職決定企業へのエントリー時期

○「12月」が57.4%と、集中度が上昇。「1月」には7割超え

8. 就職決定企業を知ったきっかけ

○「就職情報サイト」が41.7%で最多。「合同説明会」等のイベントが24.3%

9. 就職先決定に際して迷った理由

○迷った理由「大きな決断なので、簡単に決められなかった」が59.2%

10. 理系学生の就職決定方法

○「学校推薦」は、修士22.6%、学部10.7%。「自由応募」は、修士64.9%、学部77.9%

11. Uターン就職の状況

○「Uターン就職者」は15.8%。前年(19.5%)から減少

12. 就職活動の難易度

○「厳しい」(40.7%)は年々減少。「やさしい」は29.5%

《調査概要》

調査対象：2015年3月卒業予定の全国の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
回答数：1,248人（文系男子400人、文系女子325人、理系男子349人、理系女子174人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2014年7月1日～7日
サンプリング：日経就職ナビ2015就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。
日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 7月1日現在の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は79.3%。先月調査(6月1日時点)よりも8.1ポイント伸びた。今期は、前年より半月程度早いペースで推移している。文系女子(80.0%)は、6月までは他の属性に比べ内定率が低かったが、この1カ月で13.5ポイント伸びており、文系男子(75.3%)を上回る水準となった。文系女子に志望者が多い一般職の選考が5~6月に行われたことが影響していると思われる。

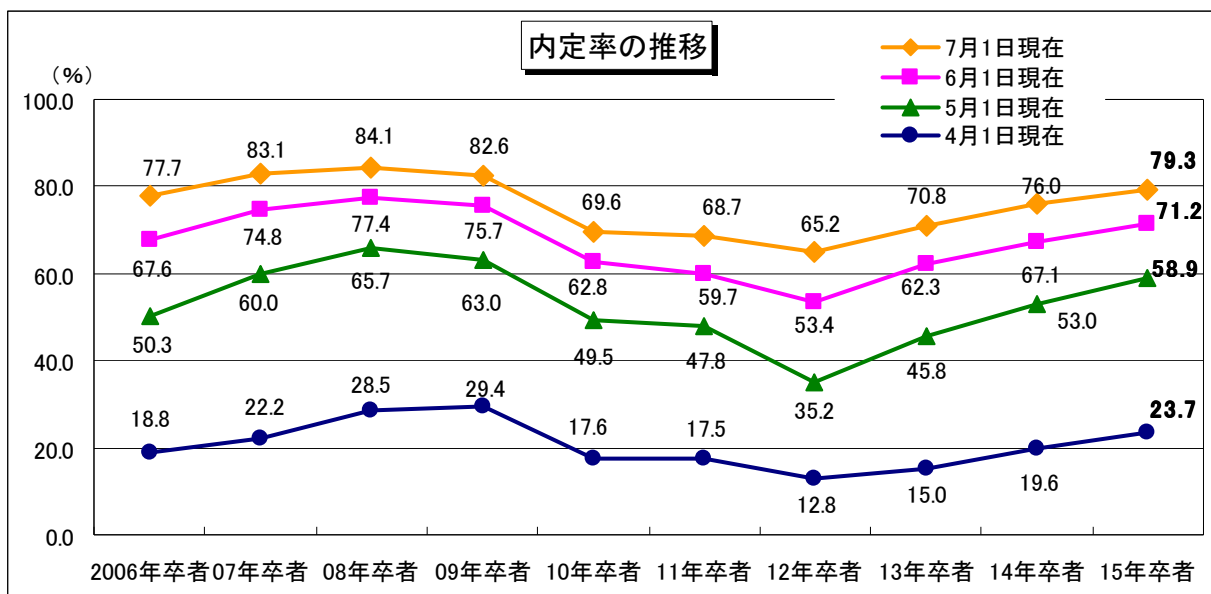
内定取得学生のうち就職活動を終了したのは82.4%で、文理別に見ると、文系の終了率が低い。また女子の内定率は文理とも男子を上回るものの、終了率が低いことから内定企業への納得度が低いと推測され、厳しさが残る。

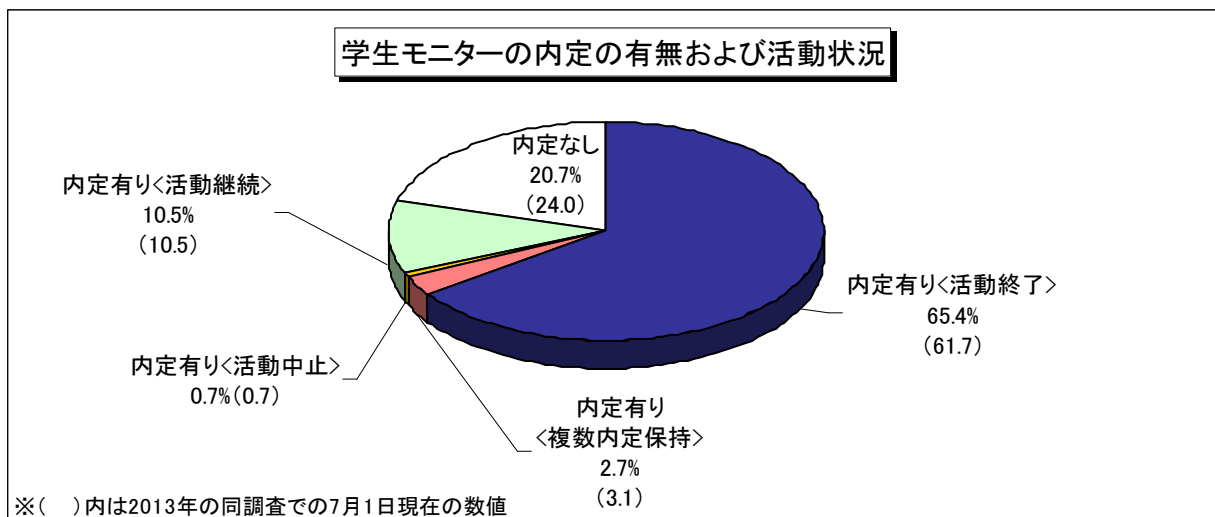
本調査時点での就職先決定者の割合は、モニター全体の65.4%を占めている(次ページ円グラフ)。前年(61.7%)よりは高いが、平均的な就活生よりも1~2割程度内定率が高いと言われる就職活動モニターでも3割以上が進路を決めておらず、就職戦線は今年も長期化が予想される。

7月1日現在の内定の状況 *「内定」には、内々定を含む (%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	
内定あり	79.3 (76.0)	75.3 (73.8)	80.0 (75.2)	81.4 (79.2)	83.3 (76.9)	
内定なし	20.7 (24.0)	24.8 (26.2)	20.0 (24.8)	18.6 (20.8)	16.7 (23.1)	
内定社数(平均/社)	2.0 (2.0)	2.0 (2.2)	2.0 (1.8)	1.9 (1.9)	1.9 (1.9)	
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	82.4 (81.1)	80.1 (80.9)	78.1 (76.3)	87.3 (86.1)	85.5 (81.4)
	終了したが複数内定保持	3.4 (4.1)	4.7 (5.3)	4.2 (3.0)	1.8 (3.3)	2.8 (5.3)
	進学などの理由で活動を中止	0.9 (0.9)	1.0 (0.3)	0.0 (0.4)	1.4 (1.8)	1.4 (1.8)
	就職活動継続	13.2 (13.8)	14.3 (13.5)	17.7 (20.4)	9.5 (8.8)	10.3 (11.5)

※()内は2013年の同調査での7月1日現在の数値





2. 7月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

7月1日現在、一人あたりのエントリー社数は平均で 89.6 社。先月調査と同様、前年同期 (93.1 社) を下回る水準で推移している。同じくセミナー参加 (53.2 社) やエントリーシート提出 (22.5 社) は前年をやや下回り、選考試験受験数 (32.0 社) は前年同期をわずかに上回る結果となった。

文理で活動状況を比較すると、内定率は理系が男女とも高いが (2 ページ参照)、活動量は全体的に文系が多くなっている。文系だけでみると、活動量は全般に男子が女子を上回っている。

	全 体	今年6月	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	89.6	87.5	93.1	102.2	100.8	66.4	86.3
今後のエントリー予定社数 (社)	3.8	7.2	4.5	3.7	4.9	2.9	2.8
セミナー・説明会参加 (社)	53.2	52.5	54.9	58.1	59.6	45.9	44.6
企業単独開催のもの (社)	24.4	23.9	25.6	27.8	28.3	18.9	20.6
合同開催のもの (社)	15.8	15.6	16.2	17.0	17.5	14.2	12.9
学内開催のもの (社)	13.0	13.0	13.1	13.3	13.9	12.8	11.1
オンラインセミナー視聴 (社)	6.3	6.2	6.5	6.5	6.4	6.2	6.1
ライブ中継 (社)	3.1	3.1	3.3	3.3	2.8	3.1	3.1
オンデマンド (録画) (社)	3.2	3.1	3.1	3.1	3.6	3.1	3.0
エントリーシート提出 (社)	22.5	21.7	24.4	25.1	24.1	17.9	22.9
選考試験の受験社数 (社)	32.0	30.4	31.9	37.2	34.6	25.2	28.6
筆記・WEB試験 (社)	15.8	15.0	15.8	18.0	17.2	12.5	14.9
面接試験 (社)	11.1	10.4	11.0	13.2	12.1	8.6	9.7
グループディスカッション (社)	5.1	4.9	5.1	6.0	5.3	4.1	4.0
工場見学社数 (社)	2.7	-	2.8	-	-	2.8	2.3
研究所見学社数 (社)	1.9	-	2.0	-	-	2.0	1.8

※「今後のエントリー予定社数」=就職活動を継続している人に調査

3. 就職活動継続者の状況

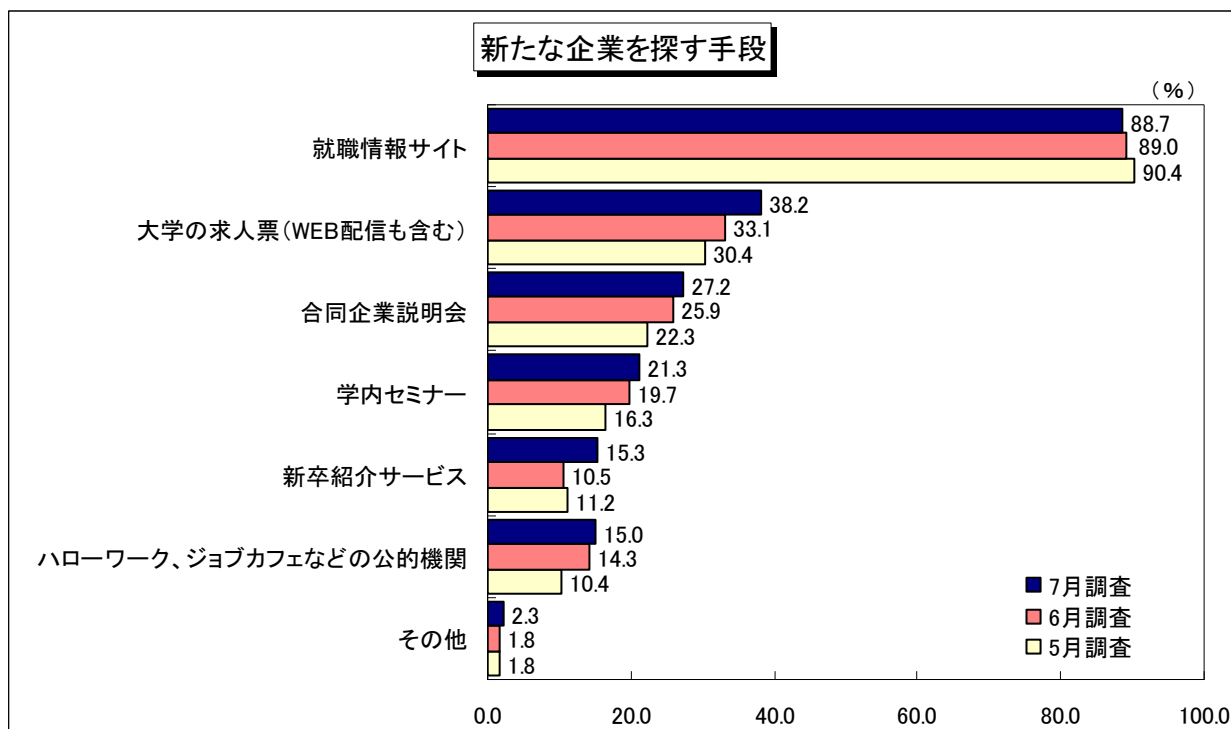
内定がある者も含め、7月1日現在で就職活動を継続している学生（モニター全体の31.2%）に、選考中の企業の数を探ねた。平均して1.6社と先月調査（2.1社）より減少している。内定保持者よりも未内定者の方が選考中の社数が少なく、意中の企業にこだわる様子が推測できる。

新たな企業を探していると回答した者（活動継続者の77.4%）に、その手段を探ねたところ、「就職情報サイト」が88.7%で、5月・6月調査に引き続き、圧倒的に多い結果となった。一方、就職情報サイト以外のすべての項目で、5月以降のポイントが上昇している。時間の経過とともに採用継続企業が減っていく中で、応募受付中の企業を探すためにより有効な手段を求める学生の様子がうかがえる。

就職活動継続者の状況(選考中の企業社数)

	全 体	内定保持者	未内定者	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
7月1日現在	1.6	2.0	1.4	1.8	1.7	1.3	1.6
6月1日現在	2.1	2.3	2.0	2.2	2.5	1.4	2.1
5月1日現在	2.7	2.5	2.8	2.6	3.1	2.2	3.0
4月1日現在	6.2	6.2	6.2	6.6	6.8	5.5	5.8

(社)

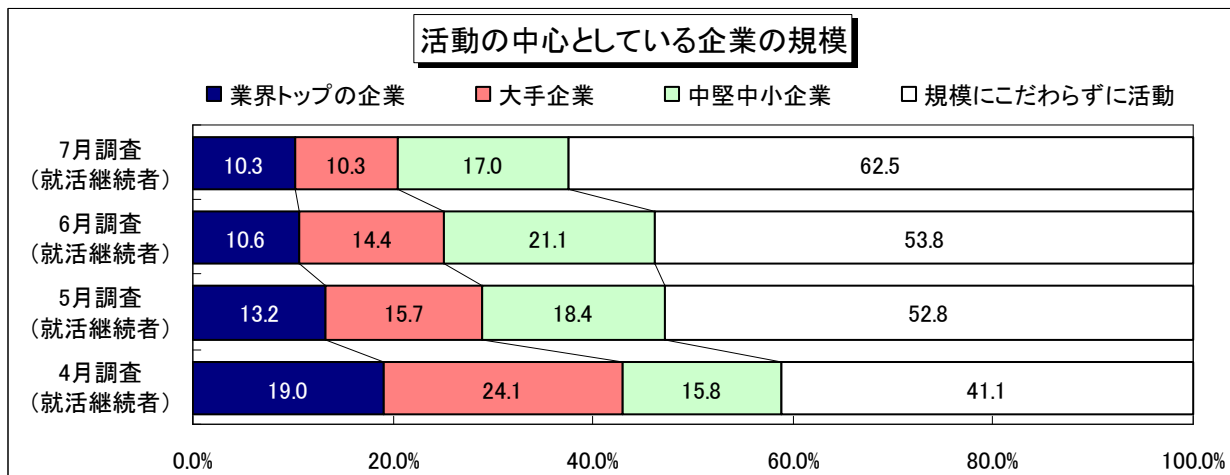


■就職活動継続者のコメント

- コミュニケーション力のある『リア充』が勝つ世界。 <文系女子>
- 内定が出た人が周りに増えてきたため、あせっている。しかし、以前のような不安感はむしろ減り、なるようにしかならないと余裕を持って就職活動が行えるようになった。 <文系女子>
- 色々な規模の会社の選考に進んだが、中小企業のほうが会社や仕事のイメージはしやすいと感じている。大企業となってしまうと仕事や職種の範囲が広がってしまい、会社のイメージがしにくいと感じた。 <理系男子>
- 志望業界の選考が早かったためにそれまでに対策が十分に行えなかった状態で選考を迎えてしまったために満足かず就職活動が長引いてしまった。 <理系女子>

4. 就職活動継続者が活動の中心とする企業規模

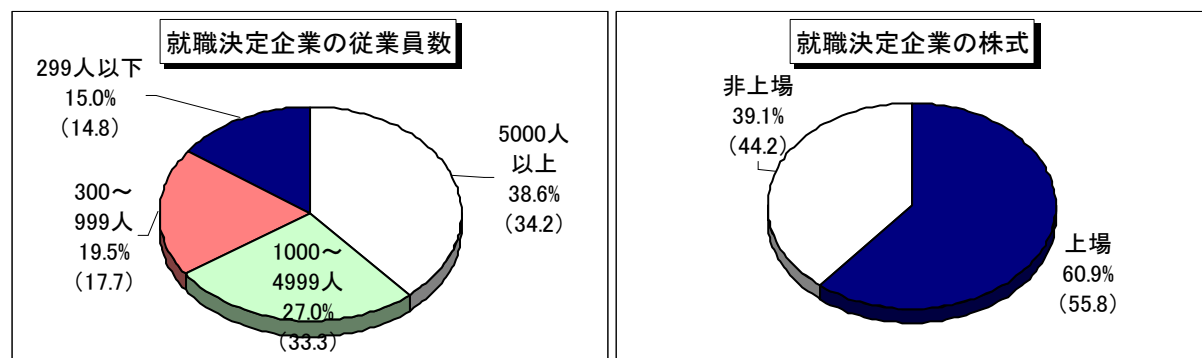
就職活動継続者が活動の中心としている企業の規模を見ると、「規模にこだわらずに活動」という回答が6月時点では53.8%だったのが、この7月には62.5%と6割を超え、就職先選びにおける「企業規模」の重要性が徐々に薄れている様子が見てとれる。また、全体では「業界トップ」を活動の中心とする割合が10.3%と先月・先々月より減少している。



5. 就職決定企業の規模

就職活動終了者（モニター全体の65.4%）に、就職決定企業について尋ねた。従業員数が「1000～4999人」と「5000人以上」の割合を合計すると65.6%となった。

採用人数が比較的少ない中小企業では、大手企業の選考が一段落した後に活動が本格化するケースも多いため、今後は中小企業の比率が高まっていくと見られる。



6. 就職決定企業の業界

就職決定企業の業界を、就職活動前のいわゆるプレ期 (2013 年 11 月中旬調査時) に志望していた業界と比べてみた。

文系においては、就職活動前に志望していた業界と、実際に決定した業界の 1 位はともに「銀行」で、人気の強さを裏付ける結果となった。理系においては、就職活動前の志望では 7 位だった「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が、就職決定業界では 1 位と大きく伸びている。同業界は、文系でも大幅に順位を上げている (13 位→2 位)。採用数の多い業界であるため、就職活動を進めるうちに就職先として意識していくケースが多いのだろうと思われる。

逆に大きく順位を下げた業界としては、「水産・食品」や「商社 (総合)」「マスコミ」など、人気が高い割に採用数が少ない業界がある。

文 系

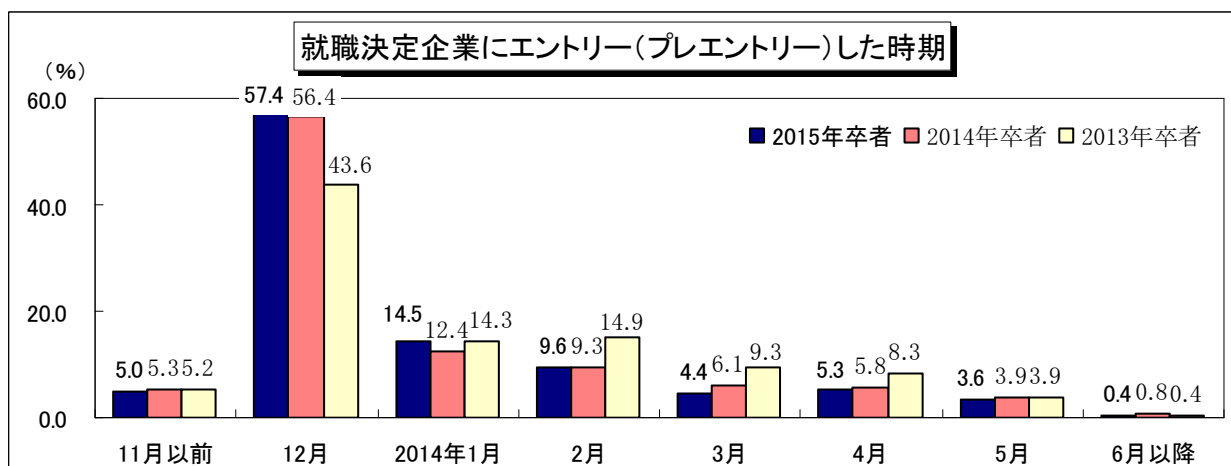
理 系

プレ期の志望業界 (第1志望)		%	就職決定企業の業界		%	プレ期の志望業界 (第1志望)		%	就職決定企業の業界		%
1位	銀行	14.0	1位	銀行	14.2	1位	医薬品・医療関連・化粧品	11.3	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.9
2位	マスコミ	11.3	2位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	7.9	2位	水産・食品	10.9	2位	電子・電機	11.0
3位	運輸・倉庫	8.5	3位	保険	6.8	3位	素材・化学	9.7	3位	医薬品・医療関連・化粧品	8.3
4位	官公庁・団体	7.9	4位	運輸・倉庫	5.9	4位	電子・電機	7.4	4位	建設・住宅・不動産	7.5
5位	水産・食品	6.5	5位	建設・住宅・不動産	5.4	5位	情報・インターネットサービス	6.4		自動車・輸送用機器	7.5
6位	商社(総合)	5.5	6位	商社(専門)	4.3	6位	建設・住宅・不動産	6.2	6位	素材・化学	6.5
7位	ホテル・旅行	4.7	7位	証券・投信・投資顧問	3.8	7位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	6.0	7位	機械・プラントエンジニアリング	4.8
8位	医薬品・医療関連・化粧品	3.1	8位	電子・電機	3.4	8位	機械・プラントエンジニアリング	5.4	8位	通信関連	4.0
	保険	3.1		官公庁・団体	3.4	9位	自動車・輸送用機器	4.0	9位	運輸・倉庫	3.8
	教育	3.1		10位	スーパー・コンビニエンス	3.2	10位	運輸・倉庫		3.8	精密機器・医療用機器
11位	商社(専門)	3.0		その他サービス	3.2	11位	官公庁・団体	3.6	11位	水産・食品	3.2
12位	建設・住宅・不動産	2.8	12位	ホテル・旅行	2.9	12位	商社(総合)	2.8	12位	情報・インターネットサービス	3.0
13位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	2.3		医薬品・医療関連・化粧品	2.9	13位	エネルギー	2.6	13位	官公庁・団体	2.7
	情報・インターネットサービス	2.3	14位	マスコミ	2.7			マスコミ	2.6	14位	エネルギー
	調査・コンサルタント	2.3	15位	機械・プラントエンジニアリング	2.5	15位	銀行	2.4	調査・コンサルタント		2.4
16位	証券・投信・投資顧問	2.0	16位	自動車・輸送用機器	2.3	16位	精密機器・医療用機器	2.2	16位	銀行	2.2
17位	素材・化学	1.7	16位	調査・コンサルタント	2.3	17位	調査・コンサルタント	2.0	17位	証券・投信・投資顧問	1.6
	自動車・輸送用機器	1.7	18位	信用金庫・労働金庫・信用組合	2.0		17位	農業・林業・鉱業		2.0	
19位	その他サービス	1.6		商社(総合)	1.8	19位	通信関連	1.8	18位	商社(専門)	1.3
20位	OA機器・家具・スポーツ・玩具他	1.4	19位	精密機器・医療用機器	1.8	20位	OA機器・家具・スポーツ・玩具他	1.6		その他サービス	1.3
	エネルギー	1.4			素材・化学	1.8					

※上位 20 業界を掲載

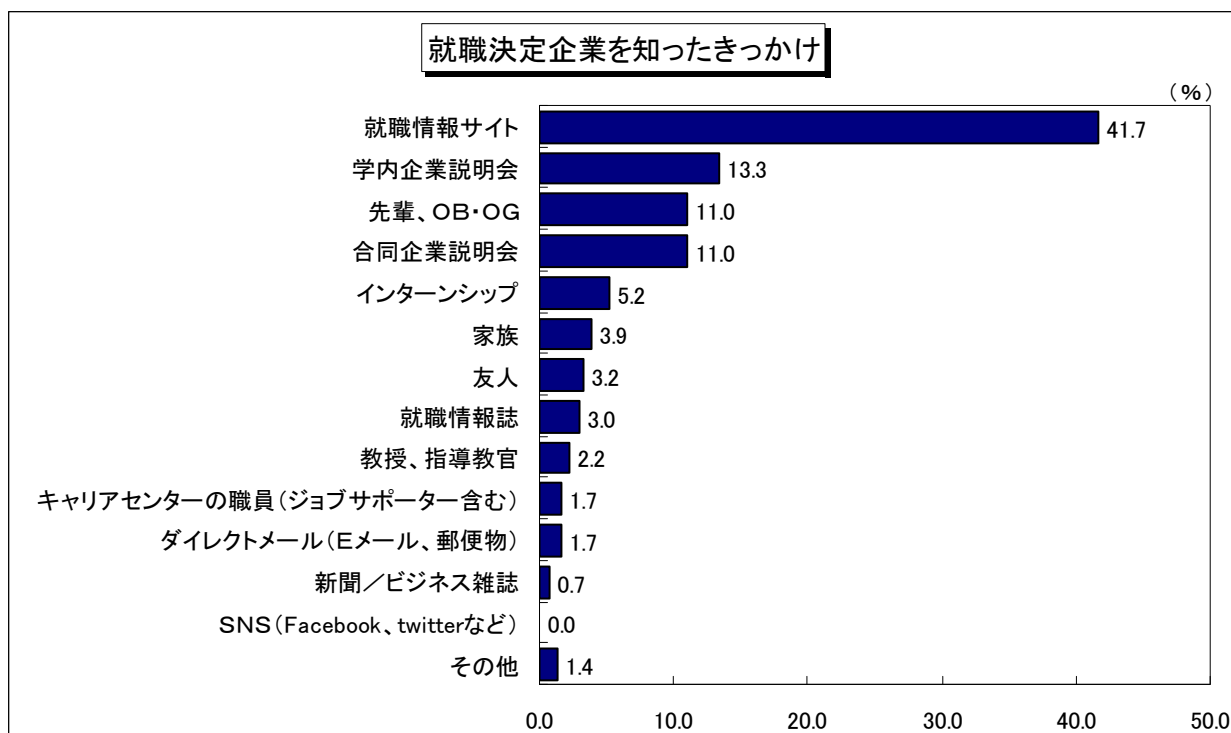
7. 就職決定企業へのエントリー時期

就職決定企業にいつごろエントリーをしたのか尋ねたところ、就職情報サイトのオープン時期である「12月」との回答が57.4%と半数を超えた。1月までを合計すると76.9%で前年同様7割を超える。就職先が決まった学生の多くは、かなり早い時期から志望していた企業を中心に就職活動を展開し、内定に至っている様子が見えてくる。企業としては、早期に活動する意欲の高い学生を採用するためには、早めの情報公開が望ましいと考えられる。



8. 就職決定企業を知ったきっかけ

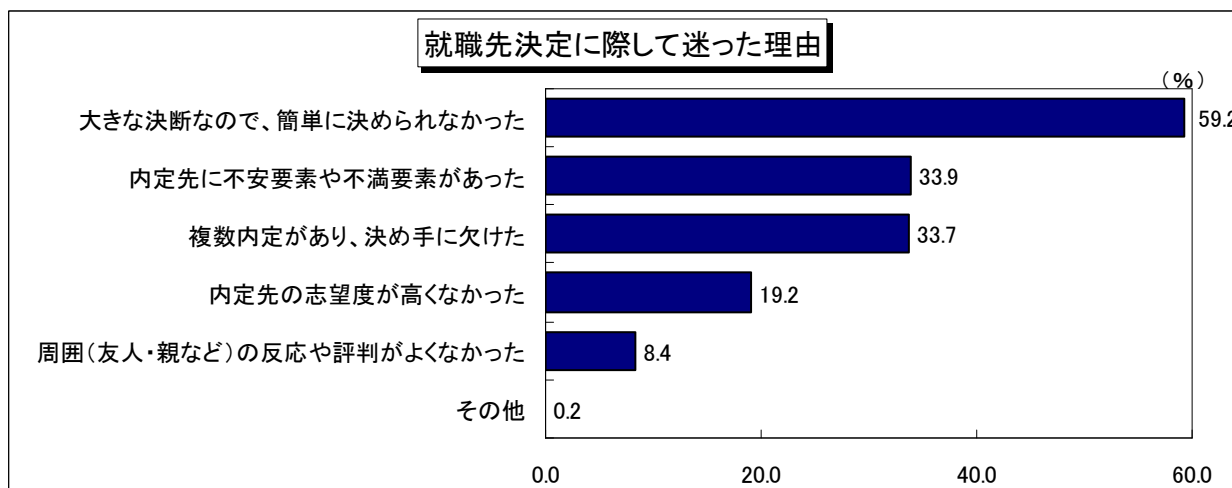
就職決定企業を知ったきっかけについて尋ね、「就職活動以前から知っていた」と答えた者(27.5%)を除いて再集計した。その結果、「就職情報サイト」が41.7%と圧倒的に多く、学生にとって「就職活動の入り口」として機能していることが分かる。また、「学内企業説明会」(13.3%)、「合同企業説明会」(11.0%)を合わせると24.3%となり、4人に1人にのぼる。イベントの持つ影響力の強さがうかがえる。



9. 就職先決定に際して迷った理由

就職先を決定するに際し「非常に迷った」(16.8%)、「少し迷った」(33.1%)と回答した者に対し、「迷った理由」を尋ねた。最も多かったのは「大きな決断なので、簡単に決められなかった」(59.2%)で約 6 割にのぼり、就職先の決定が人生の大きな決断であると捉えていることがよく分かる。

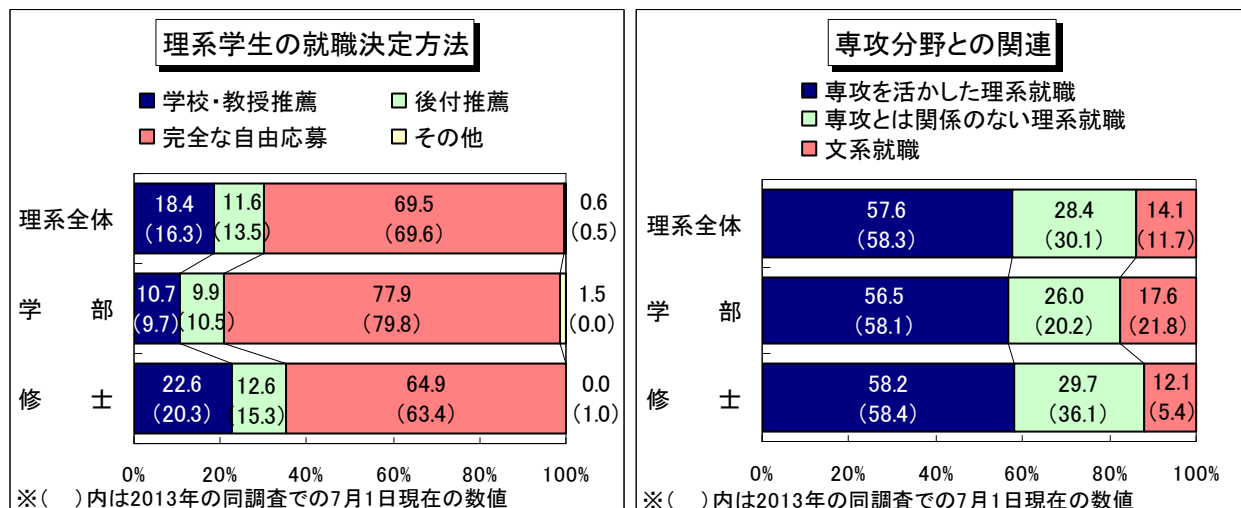
注目すべきは 3 人に 1 人が選択している「内定先に不安要素や不満要素があった」(33.9%)、「複数内定があり、決め手に欠けた」(33.7%)だ。内定者に対して、企業からより充実した情報提供や内定後のフォローをすべきと考えられる。



10. 理系学生の就職決定方法

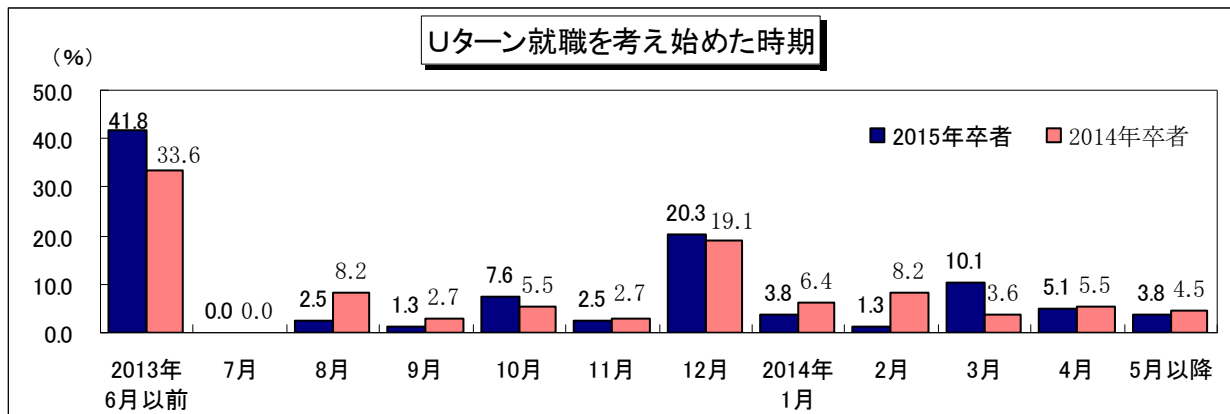
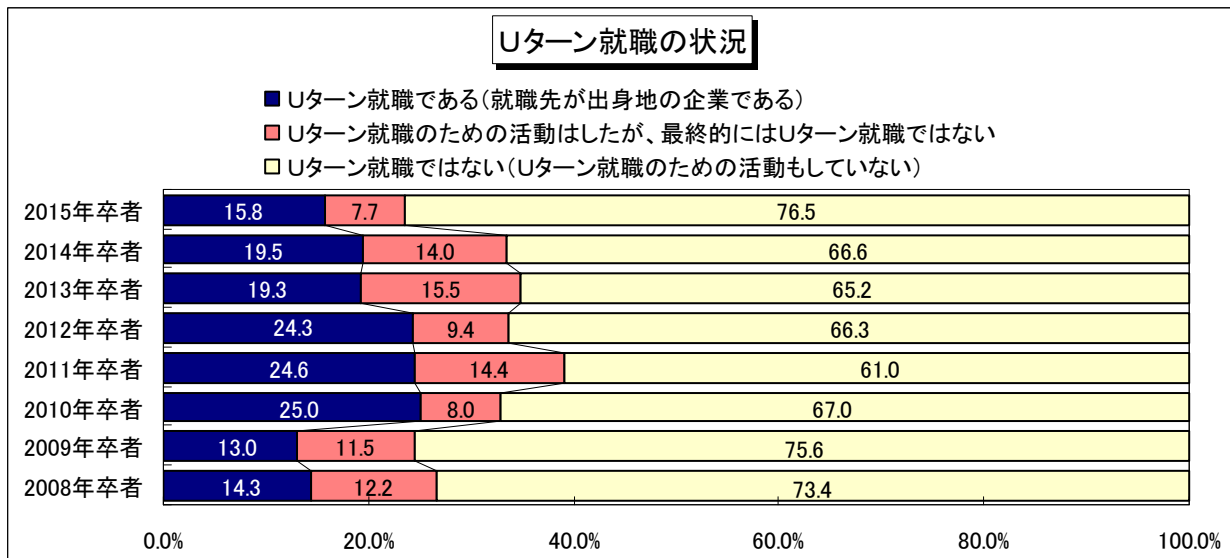
理系学生に対して、就職先決定に至る方法を尋ねた。学部・修士ともに「完全な自由応募」が大半で、学部では 77.9%、修士でも 64.9%を占めている。推薦の利用は前年より増えているが 2 割程度 (18.4%) であり、少数派と言える。自由応募で受け推薦状提出を条件に内定を受ける「後付推薦」は 11.6%で前年より 1.9 ポイント減少している。

また、専攻分野との関連をあわせて聞いたところ、学部生において「選考とは関係のない理系就職」の割合が増えている。「専攻を活かした理系就職」は学部・修士での大きな違いは見られなかった。



11. Uターン就職の状況

就職活動終了者のうち、出身地・親元を離れて生活している学生に、Uターン就職かどうかを尋ねた。「Uターン就職者」は15.8%で前年から3.7ポイント減少し、「Uターン就職ではない」が76.5%と9.9ポイント増えた。これはリーマン・ショック前と近い割合であり、就職環境の改善により大都市圏への就職志向が高まったことがうかがえる。Uターン就職について考え始めた時期は、「2013年6月以前」が41.8%で最も多く、かなり早い段階から地元に戻ることを視野に入れていたことが分かる。

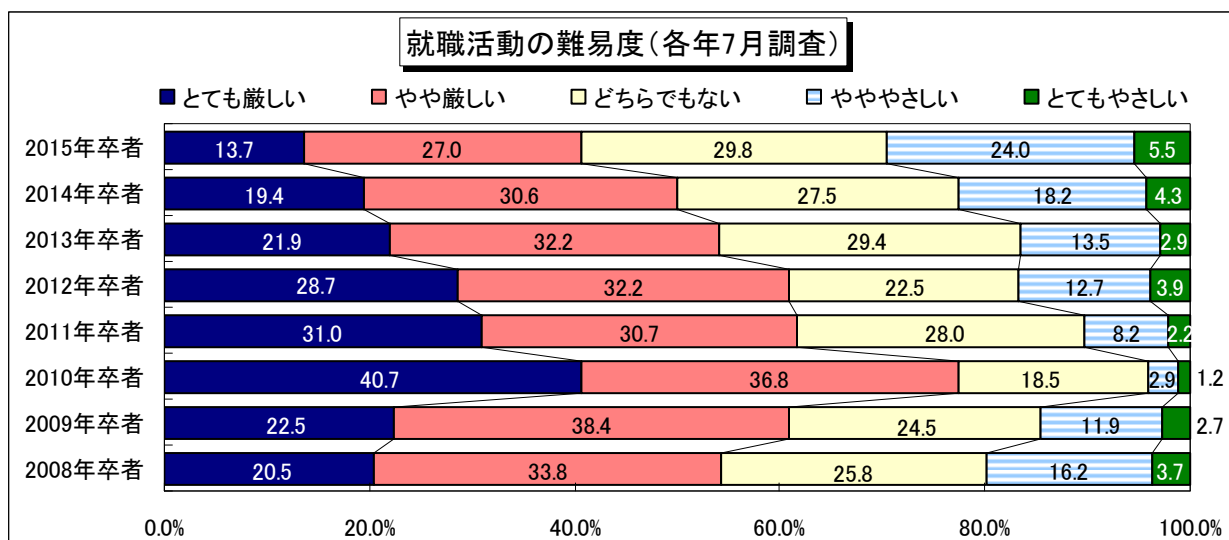


■ Uターン就職活動で苦労したこと

- 出身地の地元の企業の情報が明らかに地元の大学の人より不足しており、就職活動時に若干不利に感じた。 <文系男子>
- 首都圏での就職活動との両立がスケジュール的にも金銭的にも難しかった。 <文系女子>
- 都心にある企業(大手)らと比較すると絶対的に情報が不足しており、選考中や就職を決める際にも不安要素が大きかった。 <文系女子>
- 就職活動をする際には、いちいち地元に戻らないといけないので、交通費が高くなったり、移動する時間が長かったりしたのが大変でした。 <理系男子>
- 一度都会に出てしまった身であるため、本当に田舎に帰ってくるのか疑われる。 <理系男子>
- 就職活動で地元と東京を何度も行き来したこと。選考日が重なってどちらか行けないことがあった。また、同日に行き来して二つの選考を受けたこと。交通費がかかった。 <理系女子>

12. 就職活動の難易度

これまでの就職活動を振り返ってもらったところ、「とても厳しい」「やや厳しい」の合計は約 4 割 (40.7%) であり、「やさしい」の合計は 29.5% であった。厳しいと感じるほうが多いものの、年々その差は縮まっている。「とても厳しい」は、リーマン・ショック後の 2010 年卒者をピークに 5 年連続で低下しており、今年は 13.7% と前年 (19.4%) より 5.7 ポイント減少している。企業の採用意欲の高さが内定率を押し上げ、学生の意識に大きな影響を与えている。



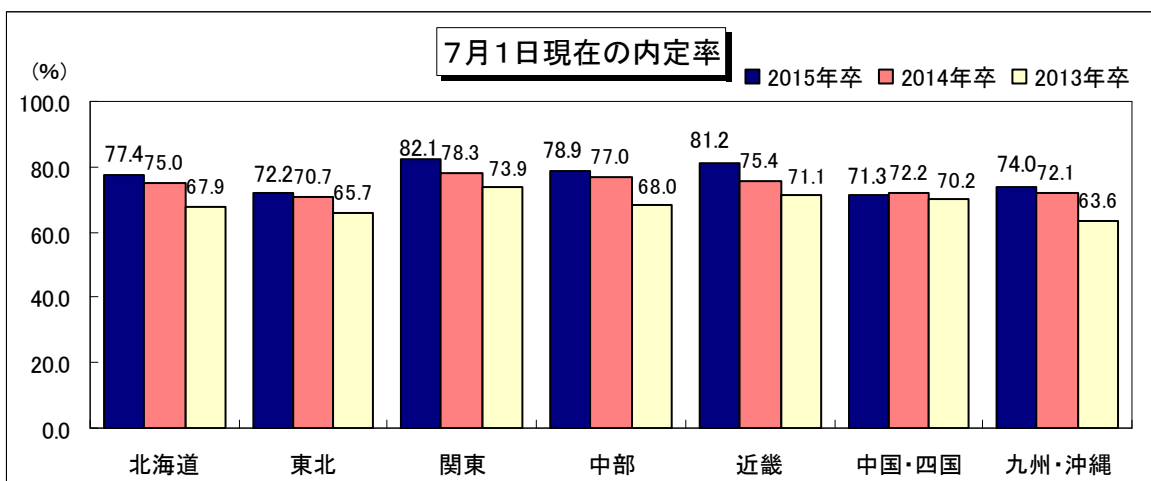
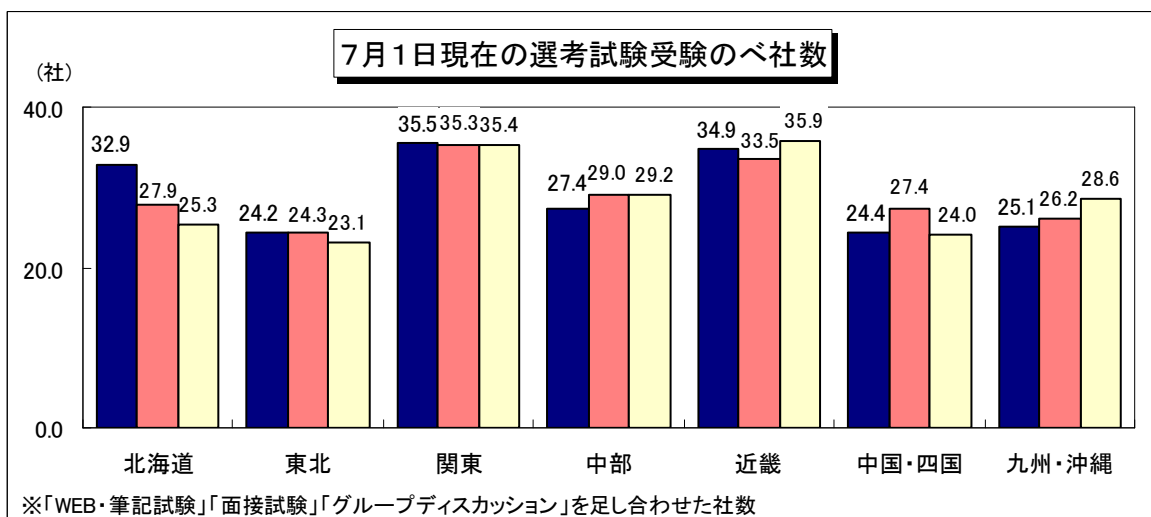
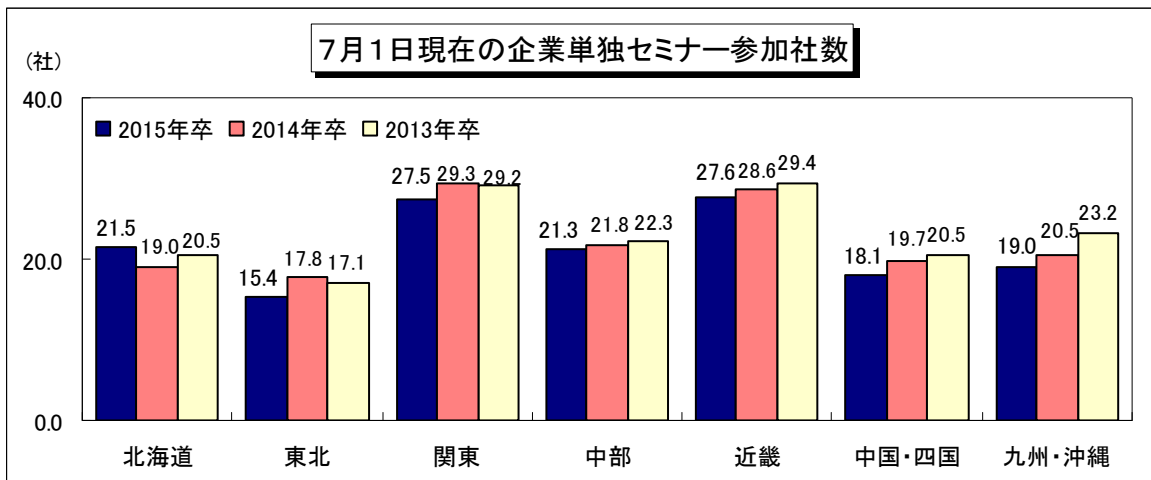
■ 「とても厳しい」「やや厳しい」

- 第一志望の企業に落ちてから、自分が何の仕事をしたのかが分からないまま、漠然と就職活動をしてしまっている。就職活動において気持ちの切り替えが大事だと実感した。 <理系男子>
- なんとなく就職活動に満足していない。やはり短期間でこれからの人生の大部分を決めるということは難しいと思う。 <理系男子>
- 大学入るまでそれほど求められなかったコミュニケーションをはかる力で差を付けられることに戸惑っている。 <文系男子>
- せっかく ES が通っても、最初の集団面接で周りとのトーク力の差を感じほとんど落ちていた。自分が 4 月という早い時期に内々定を貰ったのは奇跡だと思う。 <理系女子>
- 積極性がないと大手企業、あるいは志望企業には受からない。積極性は自分の将来についてのビジョンが明確にしておかないと湧き出ない。しかし将来のビジョンは数日数週間では描けないと思うし、自分 1 人じゃ限界がある。そこで就活が始まる前 (大学 2 年頃が望ましい) キャリアセンターや先輩方とお話をする必要があると就活を通して強く感じた。 <文系男子>
- 将来に漠然とした不安を感じる。 <理系女子>

■ 「とてもやさしい」「やややさしい」

- 今年の内定率の高さには驚いた。15 卒は運が良い。 <文系女子>
- 複数内定をもらっているのでも、心苦しい。 <文系女子>
- 色々な人の話を聞くことができ、非常に有意義だったように思う。 <文系男子>
- 頑張りによって結果はついてくる。但し、コミュニケーション力や頭の回転の早さなど潜在的能力が大きく評価されることも痛感した。 <理系男子>
- 思ったより大変ではなく、楽しんで就職活動をすることができた。 <理系男子>
- 準備をちゃんとした人は行きたい会社に行けるんだなーと思いました。 <理系女子>

《参考データ》 大学地域別集計



【回答数】

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
2015年卒	62	79	520	161	250	80	96
2014年卒	72	75	515	174	272	72	104
2013年卒	56	70	498	169	235	84	88